

医療被ばく研究情報ネットワーク 第1回全体会議 議事録

1. 日 時 : 2010年12月6日(月) 午後2時~4時半
2. 場 所 : UDX カンファレンス Room E (東京 秋葉原)
3. 参加者 : (別添)
4. 議題
 - (1) これまでの活動報告
 - (2) 医療被ばくに関する国際動向 (ICRP, IAEA, WHO, UNSCEAR など)
 - (3) 医療被ばくに関する国内動向
 - (4) 組織体制
 - (5) 今後の活動計画
 - (6) その他
5. 配付資料
 - (1) 参加予定者
 - (2) これまでの活動
 - (3) 医療被ばくに関する国際動向
 - (4) 医療被ばくに関する国内動向
 - (5) 医療被ばくに関する研究情報
 - (6) 今後の活動計画
 - (7) その他
6. 議事
 - (1) 医療被ばく研究情報ネットワークの趣意説明
放医研・米倉理事長より、開会の挨拶と医療被ばく研究情報ネットワークの趣旨が説明された。続いて、各参加者からの自己紹介がなされた。

(2) これまでの活動

医療被ばく研究情報ネットワークがこれまで行ってきた活動に関して事務局より紹介された。まず、ネットワークの名称について再検討されていたが、日本語名称は当初のとおり「医療被ばく研究情報ネットワーク」とし、英語名称は”Japan Network for Research and Information on Medical Exposures”(略称 J-RIME)とされたことが報告された。メーリングリストについては、今年3月30日のキックオフミーティングで各組織・機関のコンタクトパーソンを中心にメーリングリストが作成され、WHO・IAEAなど国際機関から届いた情報は事務局から随時送られていることが報告された。また、このアドレスについて、従来の me_network@nirs.go.jp から新規の j-rime@nirs.go.jp への変更が予定されていること、ネットワークの情報発信媒体としてホームページの作成・運用が検討されていることが報告された。

WHO Global Initiative のリスクアセスメント対応として、小児の医療被ばくに関するサブグループが国立成育医療研究センターと放医研を中心として作成され、小児の放射線診療に関する実態把握の必要性とその方法論に関して関係者の間で議論が進められていることが事務局より報告された。

(3) 医療被ばくに関する国際動向

最初に、ICRP の動向について各専門委員会のメンバーの先生方から紹介がなされた。第三専門委員会委員の米倉理事長より、同委員会では粒子線治療施設の防護のあり方について、また、医療被ばくの正当化の捉え方について Publication の作成が進められていることが紹介された。第四専門委員会委員の甲斐先生からは、同委員会では NORM の規制やセキュリティスクリーニングに関する放射線防護について検討され、医療関連では職業被ばくに関する放射線防護に関して検討がなされていることが紹介された。第五専門委員会委員の酒井先生より、同委員会では生態環境に対する放射線防護のあり方について検討が行われているとの紹介があった。

次に、UNSCEAR国内対応委員のメンバーである伴先生から、UNSCEARの動向について紹介がなされた。今年8月に行われた第57回会合では、事前に用意された7つのドラフトについて主に議論が行われ、医療放射線関連では「データ収集、解析、公表の改善」と題する内部文書の検討において、データ収集の新たな戦略と実施方針を策定したことが紹介された。UNSCEAR報告書について、医療被

ばくに関するUNSCEAR 2008年報告書附属書Aが刊行され、現在、放医研を中心に日本語翻訳作業が進められていることが事務局より報告された。

IAEA Action Planの現状について、細野先生から紹介がなされた。患者の医療被ばくに対する国際的な行動計画に関する会合(Steering Panel)では、他の国際組織と連携や、既存の情報・資源の放射線防護への取り入れが検討されていることが紹介された。また、本年10月に行われたSmart Card/SmartRadTrack Project Technical MeetingおよびJustification Technical Meetingについて、事務局からその動向が紹介された。Smart Card Projectについて、患者の線量データを収集する目的および患者が得られる利益について議論されたが、その具体的内容についてはIAEAで検討中であると事務局より報告された。また、線量だけでなく、画像データの収集を検討すべきと細野先生から提案された。

WHOに関しては、Global Initiative on Radiation Safety in Healthcare Settingsの活動について、山下先生、宮寄先生、米原先生から報告があった。日本としてリスクアセスメント分野に対する参加（小児患者の被ばくのリスク評価）が期待されていることが紹介された。また、山下先生より放医研がInitiativeをとって国際機関と対応をとることが望ましいと提案された。

来年4月に横浜で開催されるJRC2011の合同シンポジウムでWHO Global Initiativeの担当者であるDr. Maria Perezが15分間発表される予定であり、IRQNのDr. Lawrence Lauも来日予定であること、WHO GI関係のセッションなどをJRC2011期間中あるいはその前後に開催することを計画していることが事務局より紹介された。

(4) 医療被ばくに関する国内動向

生物医学ボランティア放射線防護に関する日本核医学会の取り組みについて、栗原先生より紹介があった（本田先生代理）。日本では臨床研究または治験での研究ボランティアの被ばくについて、倫理審査委員会がその役割を担い、各施設の放射線医学の専門家が助言や審査および管理に努めており、ほとんどの研究でICRPや欧米の基準から外れることなく実施されている。しかし、専門家を選出できない施設もあるため、多施設や外部組織への委託が可能な体制作りの必要性があり、また、施設ごとの研究ボランティアに許容される被ばくの規制線量が定まっておらず、現体制には改善の余地があると報告された。

(5) 医療被ばくの研究情報

放射線診療における施設・機器・頻度・被ばく線量など各分野の学会および専門家が有している研究情報を一元化し共有することが求められている。まずは、J-RIME メンバーが保有する情報を調査することから始めることが事務局から提案され、了承された。

(6) 今後の活動計画について

組織形態について、医療放射線利用における安全適正化を目指すべく医療被ばくに関する諸問題を検討するため、関連機関・組織・専門家が自由に参加できることを目指している。そのため、当面会費制はとらず、会議参加等必要な経費は参加者（団体）がそれぞれ負担している。組織形態を明確にするため、放医研内に事務局機能を担っていく組織を作り、会議費も支出可能にしていく方向性が提案され、了承された。また、佐々木先生より医療現場、放射線防護の専門家、行政などが連携し、対応を協議する必要があると提言された。

具体的な活動計画について、年 1-2 回程度の全体会議を行い、研究情報を収集・共有し、国際機関への対応を協議・実践していくことが確認された。また、必要に応じて適宜サブグループ会議（活動）を行うこととした。医療被ばく関係の研究立案および研究費申請、規制関連としての応募、諸問題の行政への提案等については、今後検討されることとした。

今後のスケジュールは、2011 年 3 月末を目処にホームページを構築・公開する予定である。また、同年 4 月より新たな規定に基づき J-RIME の活動を開始する予定である。さらに、同年中に医療被ばく研究情報に関するシンポジウムを開催する案が事務局より提案され、了承された。

参加者（一部オブザーバ参加）

原子力安全委員会：	事務局 片岡 穰 安全調査官
文部科学省：	科学技術学術政策局 井上裕司 放射線安全企画官
厚生労働省：	医政局指導課 馬場征一 先生
近畿大学：	細野 眞 教授
岡山大学：	清 哲朗 先生（元厚労省医政局指導課）
長崎大学：	山下俊一 教授（元 WHO）
大分県立看護科学大学：	甲斐倫明 教授（ICRP 第 4 専門委員会委員） 伴 信彦 准教授（UNSCEAR 国内対応委員会委員）
国立保健医療科学院：	樺田尚樹 先生 ・ 山口一郎 先生
元放射線医学総合研究所：	丹羽太貫 先生（ICRP 主委員会委員）
日本放射線技師会：	北村善明 理事 諸澄邦彦 医療被ばく安全管理委員会委員長
日本医学放射線学会：	放射線防護委員会委員 宮寄 治 先生
日本放射線技術学会：	防護分科会委員 五十嵐隆元 先生
日本核医学会：	放射線防護委員会委員長 本田憲業 先生
日本放射線腫瘍学会：	高井良尋 先生
日本放射線影響学会：	宮川 清 先生
日本小児放射線学会：	宮寄 治 先生
日本歯科放射線学会：	防護委員会委員 岩井一男 先生
日本医学物理学会：	防護委員会委員 丸橋 晃 先生、唐澤久美子先生 盛武 敬 先生
医療放射線防護連絡協議会：	佐々木康人 会長、菊地 透 総務理事
日本画像医療システム工業会：	岩永明男 専務理事
放射線医学総合研究所：	米倉義晴 理事長（ICRP 第 3 専門委員会委員） 放射線防護研究センター 酒井一夫（ICRP 第 5 専門委員会委員） 島田義也・米原英典・吉永信治・神田玲子 重粒子医科学センター 神立 進・米内俊祐・藤井啓輔・赤羽恵一 分子イメージング研究センター 栗原千絵子・長谷川純崇